言語社会研究科修士課程 （第２部門） ガイダンス資料

2024 年 4 月
言語社会研究科

Ⅰ．履修と修了要件について

１． 演習（ゼミ）（１科目　春夏学期・秋冬学期　各２単位）

・春夏学期・秋冬学期ともに１科目以上３科目以内の演習を毎年履修しなければならない。
・主演習（主ゼミ）は「第 2 部門（日本語教育学位取得プログラム）演習指導教員一覧」にある教員の演習から選ぶこと。
　　教員一覧　→　https://gensha.hit-u.ac.jp/staff/index2.html
・演習への参加者は面接で決定されるので、シラバスでゼミ選考の方法を必ず確認し、希望する各ゼミの指導担当教員に相談すること。

２．日本語教育学位取得プログラム修了証

・言語社会研究科の学位は、修士（学術）であるが、日本語教育についての専門的な教育を受けたことを特に証明するために、一定の条件を満たして課程を修了した者には、通常の学位記のほかに「日本語教育学位取得プログラム修了証」を授与する。
・詳しい要件については、「2024 年度日本語教育学位取得プログラム修了証取得のための履修要項」を参照のこと。

３．日本語教育実習Ａ・Ｂ（国内）

日本国内における教育実習は、修士 2 年目の春夏学期に実施される。「日本語教育学位取得プログラム修了証」を取得するためには、日本語教育未経験者は、国内実習の履修が必要となる。

４．日本語教育実習Ｃ・Ｄ（海外）

・2024 年度は、台湾の東呉大学、ベトナムのダナン外国語大学を実習校として予定している。ただし、新型コロナウィルス感染症の状況などにより渡航による実習が難しいと双方の大学で判断された場合は、東呉大学とはオンラインでの実習を行い、ダナン外国語大学の実習は休講となる（個別の事情による渡航の可否には対応しない）。
・実習の時期は、台湾（2 月下旬～3 月中旬）、ベトナム（2 月下旬～3 月上旬）の 12 日間程度を予定している。
・定員は、台湾実習 4 名、ベトナム実習 6 名とする。
・実習参加者は既定の参加手続きを取ったうえで、実習関連経費を支払う必要がある。
・詳細は募集時期に提示される応募要領を参照のこと。

５．他研究科、学部の科目

他研究科・学部の科目の時間割については、CELS のダウンロードセンターから入手すること。

①演習　他研究科の演習のなかには、その研究科の学生以外は履修できないものもあるので、確認のうえ、各担当教員の了解を履修登録前に取っておくこと。また、言語社会研究科と異なり、他研究科の演習は通年での履修が義務付けられているものもあるので、休学の際には注意すること。

②講義　他研究科：

・履修制限のある科目もあるので、講義シラバスないし各研究科の HP を参照のこと。学部：８単位以内。

・「共通教育発展科目」のうち履修可能なのは、「発展共修」科目、すなわち科目ナンバーコードの４桁目が「4」である科目のみである（例：XX－X4XX－X）。それ以外の科目は、教員の許可を得て聴講することができる場合はあるが、履修登録はできない。

・「学部教育科目」のうち履修可能なのは、学部発展科目のみである。導入科目、基礎科目は教員の許可を得て聴講できる場合はあるが、履修登録はできない。

Ⅱ．国立国語研究所図書館の利用

第２部門（日本語教育学位取得プログラム）の大学院正規学生（研究生は除く）は、利用の説明を受け、利用者証が発行されれば、国立国語研究所研究図書室を利用することができる。詳しい内容については、ウェブサイト研究図書室 | 国立国語研究所 (ninjal.ac.jp) を参照のこと。